

## アフリカ地域の国旗クイズプリント【由来→国名】

解 答

つぎの国旗の由来を読んで、国名を答えてみましょう。

<p>1920年代に反フランス運動の指導者となったメッサリ・ハジが作り、民族解放戦線の旗として掲げられた旗を、独立を国旗にした。この地域では、新月と星は幸運の象徴といわれている。</p>	<p>アンゴラ開放人民運動（MPLA）のときには使われた旗に、農民を表した農耕用ナイフと、工場で働く人々を表した歯車をつけ加えてデザインした。星は、アンゴラ共和国がMPLAの指導下になっていることを示している。</p>	<p>もともとはウガンダ人民会議の党旗に由来したもので、黒・黄・赤の3色のストライプで構成されている。国旗の真ん中には國鳥カシミルツワシをあしらう、黒はアフリカ人の力と勇気を表している。</p>	<p>上段の赤は革命を、中央の白は輝かしい未来を、下段の黒は過去の暗黒の時代を象徴している。真ん中に配達されているのは「サラディンのタク」呼ばれる軍事組織である。王政時代には、緑地に白い新月と3つの星がデザインされた国旗だった。</p>	<p>上段から緑・黄・赤の配色になっていて、古来からエチオピアで使用されてきたなじみ深い色である。アフリカ諸国の中でも独立の際に、国旗の見本となったのでアフリカ色と呼ばれている。真ん中にはソロモンの印章が配置されている。</p>	<p>3色の三角形で構成されていて、緑色は農業を表し、赤は独立のために流された血を表現。青は豊富な海洋資源を、中央に描かれた黄色のオリーブの枝は穀物資源による由来している。1995年、オリーブのデザインを少し変更した。</p>	<p>上段から赤・黄・緑の「汎アフリカ色」。独立にあたってアフリカ最古の独立であるエチオピアの国旗にならんでいる。黄を白に変えた時期がある。中央の青い星は、アフリカの独立運動の父といわれるガーナの初代大統領を表現していて、自由への道しるべの意味が込められている。</p>
<p>アルジェリア 民主人民共和国</p>	<p>アンゴラ共和国</p>	<p>ウガンダ共和国</p>	<p>エジプト・アラブ 共和国</p>	<p>エチオピア 連邦民主共和国</p>	<p>エリトリア国</p>	<p>ガーナ共和国</p>
<p>青は空と海を表し、白は平和、赤は国民の努力を表している。紅白の帶はこの国が作られるまでの道のりを示していく、黄色の10の星はカーボウェルデ諸島の主な島の数である。独立したときには、もともと連合する予定だったギニアアビサの国旗と似通ったデザインだった。</p>	<p>我が国の緑は経済を支えている豊かな森林を表し、中段の黄色はエネルギーを横切っている赤道と太陽を表現。下段の青は、水資源と南大西洋を象徴している。自治国だったときには、旗竿にフランス国旗をつけた旗を使用していた。</p>	<p>左から緑・赤・黄の汎アフリカ色で構成される。独立後何回か変更されているが、汎アフリカ色は同じである。緑は国南部にある豊かな森林地帯を表し、黄色は輝く太陽と北部のサバンナを、赤は南北の団結と耕作地帯を表し、星は栄光のシンボルとなっている。</p>	<p>上段の赤は太陽を表し、中段の青は国の中流で流れているガニア川を、下段の緑は豊かな農業資源を表している。境目の白のラインは、団結と平和の象徴。大統領の旗は、青地に国章が描かれたもので、旗の周囲が黄色く縁取りされている。</p>	<p>汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑の配色で構成。色の意味はアフリカ諸国によって違いがあり、この国では赤は労働と献身、黄色は正義と希望、緑は团结と農業のシンボルとなってい。</p>	<p>汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑の配色で構成。色の意味はアフリカ諸国によって違いがあり、この国では赤は労働と献身、黄色は正義と希望、緑は团结と農業のシンボルとなってい。</p>	<p>黒はケニア共和国の国民を表す。赤は独立で流された血を、緑は農業と肥沃な地を表す。白線は平和と国民の統一を表現し、真ん中の紋章はマサイ族の盾と槍で、自由と独立のシンボルとなっている。</p>
<p>カーボウェルデ 共和国</p>	<p>ガボン共和国</p>	<p>カメルーン共和国</p>	<p>ガンビア・ イスラム共和国</p>	<p>ギニア共和国</p>	<p>ギニアアビサウ共和国</p>	<p>ケニア共和国</p>
<p>旧宗主国であったフランスの影響を受けていて、3本の帯は国の標語である「团结・规律・労働」に対応。左側のオレンジは北部サバンナの繁榮を表し、緑は南部森林地帯と未来への希望を表現。白は北部と南部の統一と团结を表している。</p>	<p>独立から5回国旗が変わっているが、いずれも新月と4つの星がデザインされている。黄色は太陽と進歩を表し、白は純潔と忠誠を、赤は独立のために流された血を、青はイギリス洋服を表している。また、黄はムワリ、青はマイコロ、青はヌスワニの各島を表している。</p>	<p>コントドリ共和国からコンゴ共和国に国名が变成了をさっけに、1958年から1970年まで使用された緑・黄・赤の汎アフリカ色の国旗に替わった。緑は農業と未来への希望、黄色は誠実さと友愛、赤は忠誠を表現。1991年までの人民共和国時代にはハンマーとクロをデザインした赤旗だった。</p>	<p>独立してから6回目の国旗で、1963年から1971年当時の国旗に戻して赤の色を明るく変更。青は平和を表し、赤は独立のために流された赤い血を、黄色は豊かな農業を表現している。黄色の星は輝かしい未来のシンボルとなっている。</p>	<p>汎アフリカ色で構成され、中段の黄色は太陽を表し、上下の緑は豊かな農作物を、左側の赤は独立運動と平等を表現している。中央の2つの黒い星は、サントメ島とブリニシベ島の象徴である。独立闘争時のサントメ・プリンシペ解放運動の党旗がもとにになってできた。</p>	<p>地色の緑は農業と天然資源を表し、赤の縦ラインは自由を勝ち取るために争争を、黒は国民党を、オレンジ色は朝などとの資源を表している。右上の羽広げたワシは自由と困難に負けずに前に進む力を表現。1996年にワシのマークの大きさと地色の色調を変えて現在の国旗になった。</p>	<p>上段の緑は農業と山岳などの天然資源を表し、中段の白は平和と正義を表している。下段の青は首都フリータウンと大西洋を表し、緑は海岸地帯を表す。黒星は独立アフリカのシンボルとなっている。</p>
<p>コートジボワール 共和国</p>	<p>コモロ連合</p>	<p>コンゴ共和国</p>	<p>コンゴ民主共和国</p>	<p>サントメ・プリンシペ 民主共和国</p>	<p>サンビア共和国</p>	<p>シェラレオネ 共和国</p>
<p>白は平和の象徴で、青は空と海を、緑は地図を、赤い星のマークは国家の独立と統一を表現している。さらに、青はソマリ系イッサ族を表し、緑はイスラム教徒であるエチオピア系のアフマド派を表して、白い三角形で2つの民族が平等に団結することを表現している。</p>	<p>緑は農業と繁栄を表し、黄色は豊かな鉱物資源を、赤は平和闇争と進歩を表している。左側の島のモチーフはジンバブエの独立闘争によって流された血を表し、赤い星と一緒に社会主義国の連帯を意味している。</p>	<p>1956年～1970年まではガボンの国旗の色を反対にしたようなデザインだったが、アラブの統一を願って赤・白・黒・緑の汎アフリカ色の国旗を制定した。赤は革命によって流された血を表し、白は平和と未来への光を、黒はアラブカリフを、緑の三角形はイスラム教徒の繁栄を表現している。</p>	<p>第2次世界大戦のさなかに、イギリス軍に混じて戦ったスワジ人軍団の軍旗がもとになっている。左側の赤は自由のための過去の闘争を表し、青は平和と平等、黄色は豊かな鉱物資源を表している。真ん中の紋章に描かれているのは神木バヤの木と6つの地域を表現した星などである。</p>	<p>独立したときの旗が復活した。左側の青の三角形は本土と島々を結んでいる海を表し、緑は農業と天然資源を、白は平和を、赤は独立闘争で犠牲になった赤い血を表現している。真ん中の紋章に描かれているのは神木バヤの木と6つの地域を表現した星などである。</p>	<p>左下から放射状に5色が配置されていて、上から順に青は空と海を表し、黄色は太陽を、赤は労働と国民を、白は正義と調和を、緑は国民党を表している。独立してから3ヶ月目にこの国旗は、政府が採用するためには全政党の旗色を組み合わせた。</p>	<p>左から緑・黄・赤の縦3分割のデザインで、真ん中には自由のシンボルの緑の星がつけられている。この3色は汎アフリカ色、1959年にマリ連邦として連邦をつくって翌年にマリ連邦として独立をしたが、1962年に連邦から離脱した。マリ連邦当時の旗には中央に黒い人の像が配されていた。</p>
<p>ジブチ共和国</p>	<p>ジンバブエ共和国</p>	<p>スーダン共和国</p>	<p>スワジランド王国</p>	<p>赤道ギニア共和国</p>	<p>セーシェル共和国</p>	<p>セネガル共和国</p>
<p>地色は水色で中央に白星が描かれる。五芒星は5つのソマリ族の居住地区があることを指して、国土と民族の統一を表現。独立時の国連の努力をたたえる意味で、国旗の青色を採用した。</p>	<p>タンザニアとジンバブエ両国が合併したので、2つの国旗の旗を組み合わせて作った。緑は国土と農業を表し、黒はアフリカ人を、青はイギリス洋服を、緑は農業と工業と繁栄を意味し、太陽は生産と活力を、12の太陽光線はこの国の主な種族の協調と統一のシンボルである。</p>	<p>旧宗主国だったフランス国旗の因柄に影響を受けていて、真ん中の部分を汎アフリカ色の黄色に変更してきた。黄色は太陽と鉱物資源と北部地方を表し、青は空と希望と南部地方を、赤は独立闘争で流された血と国民の団結と進歩を表現している。</p>	<p>フランス国旗の青・白・赤と汎アフリカ色の緑・黄・赤を組み合わせて5色で構成され、中央の縦ラインは赤の由来の過去の闘争を表し、青は空と平和を、黄色は豊かな鉱物資源を表している。真ん中の紋章に描かれているのは神木バヤの木と6つの地域を表現した星などである。</p>	<p>歴史的に間わり合いの深いトルコの国旗の三日月と星のマークを白赤反転させたようなデザイン。19世紀から使用されていたが、1999年に月と星の大きさを変えた。三日月はフェニキア人の美の女神タヌスのシンボルである。</p>	<p>赤は独立闘争で流された赤い血を表し、緑は国民党と希望を、黄色は労働を、白は純潔を表現している。緑と黄色の5本の横ラインでこの国の5つの地方を表している。独立前は左方にフランス国旗を配置して、旗面に星を2つ配した緑の旗だった。</p>	<p>1958年のコンテストで3000人の候補の中からロンドン留学中の学生が考案したデザインが選ばれ、それをもとにして作られた。黒は農業と山岳などの自然資源を表し、白は平和と統一のシンボルである。政府旗は国章ありも許容。</p>
<p>ソマリア連邦共和国</p>	<p>タンザニア 連合共和国</p>	<p>チャド共和国</p>	<p>中央アフリカ共和国</p>	<p>チュニジア共和国</p>	<p>トーゴ共和国</p>	<p>ナイジェリア 連邦共和国</p>
<p>独立時にコンテストを行い1000ほどどの图案が集まった。青は希望と大西洋を表し、赤は新国家建設の決意と明確と独立闘争で流された血を、緑は農業と豊かな鉱物資源を表現している。</p>	<p>以前オートポルタとして独立果たすが、1983年に革命が起きて國名と国旗を変更した。赤は革命闘争と独立闘争を、青は革命闘争で流された赤い血を表し、緑は農業・林業と富と希望を表現。黄色の星は鉱物資源を表すとともに、革命の原理と指導性の象徴である。</p>	<p>以前オートポルタとして独立果たすが、1983年に革命が起きて國名と国旗を変更した。赤は革命闘争と独立闘争を、青は革命闘争で流された赤い血を表し、緑は農業・林業と富と希望を表現。黄色の星は鉱物資源を表すとともに、革命の原理と指導性の象徴である。</p>	<p>王国時代には真ん中の円の中にモロコシと太鼓がついていたが、革命後に國內のツワーフ・ツワーフ・チチ族の3部族を表現する星のマークに変更された。赤は独立闘争を表し、緑は未來への希望と発展を、白い円は和平を表している。</p>	<p>社会主義政権が崩壊したときに独立時代の緑・黄・赤の汎アフリカ色の旗が復活させられた。黒は農業と天然資源を、白は正義と調和を、緑は国民党を表している。</p>	<p>雨が少なくて水資源が貴重なこの国の人们にとって、青は恵みの雨のシンボルである。黒と白の横線は黒人と白人が協力して平等な社会を作るという目的で意が込められている。同様的理由からシマウマはボツワナの動物に指定されている。</p>	<p>紋章つきの国旗以外では、世界で一番多くの色を採用。横のY字形は、国内のさまざまな人種が統一されて前進することを意味する。かつての旗は、オランダ旧国旗の中にイギリスなどの3つの国旗を並べたものだった。</p>
<p>ナミビア共和国</p>	<p>ニジェール共和国</p>	<p>ブルキナファソ</p>	<p>ブルンジ共和国</p>	<p>ベナン共和国</p>	<p>ボツワナ共和国</p>	<p>南アフリカ共和国</p>
<p>以前のメリナ王朝時代（マレー系民族）から親しまれてきた赤と白をもとに、独立時に東部海岸地方のベツィミサラカ人を表す緑色が採用された。赤は愛と主権を表し、白は純粋と自由を、緑は進歩と希望を表現している。</p>	<p>アフリカ諸国でよく見かける独立運動を推したマラウイ会議党的旗の旗から3色を採用した。黒は国民党を表し、赤は独立運動で流された赤い血を、緑はマラウイの自然を表現している。</p>	<p>旧宗主国であったフランス国旗をもとに汎アフリカ色を採用してできた旗。緑は農業と自然を表し、青は金などの鉱物資源を、赤は独立のために流された尊い血と勇気を表現している。</p>	<p>2011年7月に独立して国連加盟国になった。黒はアラブアフリカ色を表し、白は独立闘争で手にし自由と平和を、赤は革命のために流された血を表す。緑は農業と森林やサバンナを表す。青は北部のサバンナ地帯を、赤は南北地域の融合と発展および祖国防衛のために流された血を表現している。</p>	<p>かつてのモザンビーク解放戦線旗に国章の一部を配した图案。赤は植民地解放闘争を表し、緑は農業を、黒はアフリカ大陸を、黄色は鉱物資源を表現。白のラインは平和と正義のシンボルとなっている。</p>	<p>独立以降国旗の変更はない。上段から順に赤は独立ために流された血を表し、青はインド洋を、黄色は太陽の光と自由を、緑は農業を表す。独立前は左方にモザンビーク国旗を旗竿の上部に配して、旗面に紋章をついたデザインだった。</p>	<p>モーリタニアに限らず、国旗にはその国の文化や歴史、宗教が色濃く反映されている。地色の緑と、三日月と星はこの国がイスラム教国であることを意味する。モーリタニアの旗には、モーリタニアの砂漠の砂を表す。</p>
<p>マダガスカル共和国</p>	<p>マラウイ共和国</p>	<p>マリ共和国</p>	<p>南スーダン共和国</p>	<p>モザンビーク共和国</p>	<p>モーリシャス共和国</p>	<p>モーリタニア・ イスラム共和国</p>
<p>赤旗は今の王朝が300年以上使用していて、20世紀の初めてにソロモンの印章というイスラム伝統の色彩で描かれた紋章を配した。市民用の海上国旗には、旗竿の上部に黄色の王冠がデザインされている。</p>	<p>政権交代によって王政期時代の旗を再び使用。赤はエザン地方と剣と力を表し、黒はキナカイ地方とイスラムの闘争を、青はトリボリニア地方と高潔を表現。真ん中の白い新月と5角星はイスラムの象徴である。</p>	<p>アメリカ合衆国で解放された黒人の奴隸が国を作ったので、星条旗の影響が大きい。11本の星の白の線は、独立宣言に署名した11人を表現している。</p>	<p>1999年にルワンダ政府は国旗を変更するよう決めたが、2年かかってようやく制定された。青は空と雲を表し、白は平和を表し、黄色は経済の発展と協調を、緑は農業と繁榮を、右上の金色の太陽は未来への希望と統一と無知との戦いを表現している。</p>	<p>1966年以降3つの旗で、独立したときのレント帽のデザインを復活させた。青は空と雲を表し、白は平和を表し、黄色は経済の発展と協調を、緑は農業と繁榮を、黒はアフリカ大陸を表現している。3色の構成は、3:4:3で真ん中の白いラインが幅広になっている。</p>	<p>独立以降国旗の変更はない。上段から順に赤は独立のために流された血を表し、青は印度洋を、黄色は太陽の光と自由を、緑は農業を表す。独立前は左方にモザンビーク国旗を旗竿の上部に配して、旗面に紋章をついたデザインだった。</p>	<p>モーリタニアに限らず、国旗にはその国の文化や歴史、宗教が色濃く反映されている。地色の緑と、三日月と星はこの国がイスラム教国であることを意味する。モーリタニアの旗には、モーリタニアの砂漠の砂を表す。</p>
<p>モロッコ王国</p>	<p>リビア</p>	<p>リベリア共和国</p>	<p>ルワンダ共和国</p>	<p>レソト王国</p>		